

第115回日本精神神経学会学術総会、第41回日本生物学的精神医学会で発表を行い、優秀発表賞、若手奨励賞を受賞しました。(2019/6/20-6/23)

テーマ：災害精神医学、メンタルヘルスケア、うつ病、心的外傷後ストレス障害

会場：朱鷺メッセ（新潟市）

第115回 日本精神神経学会学術総会、および第41回日本生物学的精神医学会に、当研究所から災害精神医学分野の教官(富田博秋、愈志前)と大学院生(高橋雄太、中川高、内海裕介、瀬戸萌、片柳光昭)が参加し、下記の演題（筆頭演者）で発表を行いました。

第115回日本精神神経学会学術総会

- ① ゲノムワイド遺伝子多型データを用いた機械学習によるうつ状態脆弱性の予測（高橋 雄太）
- ② メタボロームデータを用いた非線形変数選択機械学習によるうつ状態の予測（高橋 雄太）
- ③ 災害後の精神的健康状態と歩行習慣の関連（内海 裕介）
- ④ 救急医療における心理職へのニーズの検討～東北大学病院高度救命救急センターでの臨床心理士の活動から～（中川 高）
- ⑤ 東日本大震災被災地における中長期的な心理社会的支援の実態と課題（瀬戸 萌）
- ⑥ 東日本大震災が沿岸地域の就労と精神的健康に及ぼした影響（片柳 光昭）

第41回 日本生物学的精神医学会

- ⑦ 反復社会挫折ストレスにおける前頭前野の遺伝子発現（愈 志前）
- ⑧ 東日本大震災被災者における外傷後ストレス障害症状の変化を予測する因子に関する、機械学習を用いた組み合わせの検討（高橋 雄太）
- ⑨ 機械学習を用いた、因子間相互作用を考慮した、精神疾患脆弱因子の探求（若手研究者奨励賞受賞発表：高橋 雄太）

災害時にはうつ病や心的外傷後ストレス障害などのメンタルヘルスが大きな問題となる一方、客観的に病状を把握したり、予後を予測することが困難であることが、支援・介入を有効に行う上で制限をもたらしています。上記の発表は、うつ病のハイリスク者の同定、病状の客観的把握や有効な介入のための技術開発や効果的な支援方法について検討している研究の成果です。高橋雄太は①と②の2つの演題で第6回日本精神神経学会学術総会 優秀発表賞をダブル受賞し、また、事前審査で第8回日本生物学的精神医学会若手研究者育成プログラム奨励賞を受賞したために⑨の発表を行いました（右写真）。

文責：富田博秋
（災害精神医学分野）

